

令和4年11月14日

大阪市城東区役所

社会医療法人 大道会 森之宮病院

独立行政法人 都市再生機構 西日本支社

大阪公立大学



森之宮地域におけるスマートエイジング・シティの理念をふまえた まちづくりに関する協定を締結

～自宅で安心して暮らす！「健康・医療・介護」を体験できるモデルルームを公開～

大阪市城東区役所、社会医療法人 大道会 森之宮病院、独立行政法人 都市再生機構（以下「UR 都市機構」）、大阪公立大学は、森之宮地域におけるスマートエイジング・シティの理念をふまえたまちづくりに関する協定を令和4年10月31日に締結しました。（詳細は次項を参照）

その取り組みの第一弾として、UR 都市機構 森之宮第2団地（大阪市城東区）に社会医療法人 大道会と大阪公立大学が協力・監修した自宅で安心して暮らす！「健康・医療・介護」を体験できるモデルルームを公開します。ついては、報道関係者を対象とした説明会及び内覧会を以下の通り開催しますのでご案内します。尚、一般公開は後日別日を予定しております。

■協定締結に伴う4者共同での説明会・モデルルーム内覧会について

《開催日》 令和4年11月29日（火）13時10分～

《集合会場》 森之宮第2団地8号棟集会所（大阪市城東区森之宮二丁目）

《申込方法》 令和4年11月21日（月）までに下記申込先まで電話でお申し込み下さい。申込時には、社名、ご来場者氏名をご連絡ください。
（注）一般の方はお申込み頂けません。

《申込先》 UR 都市再生機構 西日本支社 総務部 総務課（広報）06-6969-9008
（土日祝を除く、月曜から金曜日までの10時から17時まで）

《留意事項》

- ・当日は受付を集合場所において12時50分から開始いたします。
- ・取材中は必ず自社腕章、社員証（記者証）、又は「市政記者カード」のいずれかを見やすいところに着用してください。腕章等を着用していない方の取材はお断りすることがありますのでご注意ください。
- ・説明会・内覧会中は、職員の指示に従っていただくなど、ご協力をお願いします。
- ・当団地には来客用駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。
- ・当団地には居住されている方がいますので取材には、配慮をお願いいたします。
- ・集合会場および当モデルルーム以外での取材はお断りします。

※モデルルームの詳細については、別添資料①をご参照ください。



転倒予防・介護予防のお部屋



介護・医療のお部屋



認知症を知るお部屋

【協定に関するお問い合わせ】

大阪市城東区役所 保健福祉課（電話）06-6930-9058

社会医療法人 大道会 森之宮病院 医療相談室（電話）06-6969-8730

UR 都市再生機構 西日本支社 大阪エリア経営部 企画課（電話）06-6346-3416

総務部 総務課（広報担当）（電話）06-6969-9008

大阪公立大学 総務課（電話）072-254-9104

【協定締結の背景】

大阪府市医療戦略会議提言（平成 26 年 1 月）において示されたスマートエイジング・シティの実現に向け、城東区森之宮地域では平成 27 年 11 月に城東区・大道会・UR都市機構の 3 者で森之宮地域におけるスマートエイジング・シティの理念をふまえたまちづくりに関する協定を締結し、孤立化防止ネットワーク会議等様々な取り組みをしてきました。

今般、令和 7 年度に森之宮地域に大阪公立大学が森之宮キャンパスを開設予定であることから、森之宮地域におけるスマートエイジング・シティの理念をふまえたまちづくりに関する協定に大阪公立大学を加え、連携事項を刷新し再締結するものです。

【協定の目的】

4 者が各々の役割に基づき、森之宮地域において地域包括ケアシステムの拡充、生活支援、住民の見守り、都市防災またはヘルスケア分野のサービス充実等に取り組み、「健康寿命の延伸」、「生涯にわたる QOL の向上」及び「安心して最期まで住み続けられる創造的な生活環境」を実現するまちづくりにつなげることを目的とします。

【本協定に基づく主な連携事項】

- ・地域コミュニティの活性化、地域包括ケアシステムの拡充に資すること
- ・地域リハビリテーションの推進、生活支援分野におけるサービスの充実に関すること
- ・健康寿命延伸のためのヘルスケア分野におけるサービスの充実に関すること
- ・防災・減災に関すること
- ・ICT 利活用の促進及び、持続可能なまちづくりに関すること
- ・多世代が暮らす魅力あるまちづくりに関すること

【自宅で安心して暮らす！「健康・医療・介護」を体験できるモデルルームの概要】（詳細は別添資料①）

ICT を活用した介護予防や転倒予防、介護する人される人にもやさしい新しい介護・医療の在り方、初期の認知症の方への理解・接し方・対応などを体験できるモデルルームです。

モデルルームは下記 3 つの部屋で構成されています。

- ・転倒予防・介護予防のお部屋：大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科監修
- ・介護・医療のお部屋：社会医療法人大道会在宅事業部監修
- ・認知症を知るお部屋：大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科監修

<SDGs への貢献>

本リリースの取り組みは、SDGs（持続可能な開発目標）における下記目標に貢献しています。

- 目標 3 すべての人に健康と福祉を
- 目標 11 住み続けられるまちづくりを



自宅で安心して暮らす！「健康・医療・介護」を体験できるモデルルーム

ICTを活用した介護予防や転倒予防、
 介護する人される人にもやさしい新しい介護・医療の在り方、
 初期の認知症の方への理解・接し方・対応などを体験できるモデルルームです。



～各お部屋のご紹介～

転倒予防・介護予防のお部屋 【大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究所監修】

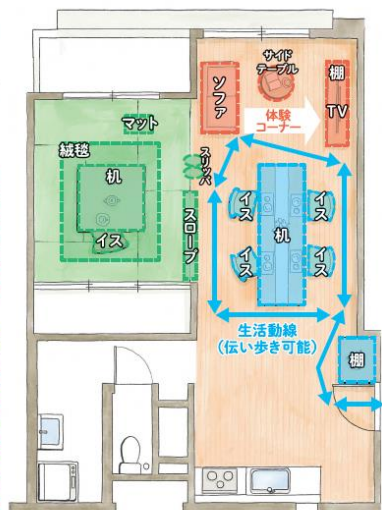
- ・家具の置き方の工夫でできる転倒予防と ICT を活用した介護予防など次世代の住まい方を提案
- ・簡単に手に入る転倒予防グッズを紹介、スマートウォッチを用いた健康状態の可視化の体験も可能

加齢や病気による筋力の低下などにより、高齢者の約20%は、1年に1回以上は転倒するといわれています。
 “生き生きとした生活を長く”続けることができるよう、ぜひ、ここで「学習」し、ご自宅でお試ください！

転倒予防グッズのご紹介
 転倒予防スリッパ、マットの滑り止め、段差のスロープ、蛍光テープ、人感照明 等
※実際にご確認できます！ぜひお試しください。

“転ばない”住まい方の工夫
 「住マイルリハビリテーション®」の実践
 手すり等を設置せずとも、生活動線内を広い歩きできる家具配置にすることで、手をつく位置を担保し、つまずきや滑りが起こった際の転倒予防につながります。このモデルルームをご覧いただくだけでも、転倒予防に関する「学習」をしていただけます。

※「住マイルリハビリテーション®」は、公立大学法人大阪の登録商標です。



介護・医療のお部屋 【社会医療法人大道会在宅事業部監修】

- ・最新の福祉用具を活用し、介護する側と介護される側両方にやさしいこれからの介護の在り方を提案
- ・お家の人でもできる医療的ケアと専門職による医療・介護ケアの紹介

在宅療養を支える福祉用具

介護される方、介護する方、どちらの負担も軽減する、福祉用具をご紹介します。

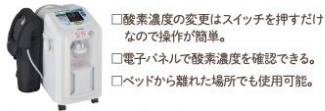


在宅療養で使える医療機器

利用開始には医師や看護師の指導が必要ですが、日常的な使用はご家族の方でも可能です。

酸素濃縮器(在宅酸素療法)

肺や心臓疾患のある方が使用します。



- 酸素濃度の変更はスイッチを押すだけで操作が簡単。
- 電子パネルで酸素濃度を確認できる。
- ベッドから離れた場所でも使用可能。

人工呼吸器

呼吸が弱くなった方の呼吸を助けます。



- 療養者に合わせて、出し入れする空気量や呼吸ペースの設定が可能。
- 空気の漏れはアラームでお知らせ。
- 内臓バッテリーで停電時も4～6時間以上は使用可能。

排痰補助装置

呼吸が弱くなり、痰が自力で出せなくなった時に使用します。



- 普段の呼吸より強く勢いのある呼吸を強制的に行い、咳のような作用で気管や肺にある痰を口元まで排出。
- 強制呼吸は回数だけなので安全。強い苦痛を伴わない。

認知症を知るお部屋 【大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究所監修】

- ・認知症や認知症初期の方の安心環境について正しい理解を深めてもらう普及啓発のためのお部屋
- ・初期の認知症の方が安心して生活できるよう暮らし方の工夫などを提案

認知症とは？

認知症への理解を深めましょう。

認知症=脳の病気

認知症とは、さまざまな原因で脳の機能が衰えることで、記憶や判断力の障害などが起き、日常生活や対人関係に支障が出る状態を言います。

主な認知症の種類とその症状や特徴	認知症予防に必要なこと
アルツハイマー型 <ul style="list-style-type: none"> □最近の出来事をおぼえることが多い □昔の出来事は覚えていないことが多い □新しいことを覚えることが難しくなる □手袋など半端なもので覚えていることがある 	生活習慣 <ul style="list-style-type: none"> ☑運動習慣 ☑十分な睡眠 ☑健康的な食事 ☑タバコを吸わない
レビー小体型 <ul style="list-style-type: none"> □子供の姿や、虫など実際に見えないものが見えることがある □寝がはまりしている時と、ぼんやりしている時がある □歩行が小刻みになることがあり転倒しやすい。など 	ヘルスケア <ul style="list-style-type: none"> ☑心疾患の治療 ☑血圧のコントロール ☑血糖値のコントロール
前頭側頭型 <ul style="list-style-type: none"> □一つのものごとに固執しやすくなる □本人なりの決まりを作ってしまう □せむしや虫のいないものを好むようになる □同じパターンでの行動をとる 	精神的・社会的に良い活動 <ul style="list-style-type: none"> ☑好きなこと興味を持ち続ける ☑新しいことを学ぶ ☑社会と繋がる ☑集団活動に参加

監修：大阪公立大学

初期の認知症の方への接し方の基本

「①驚かせない ②急がせない ③自尊心を傷つけない」の「3つのない」を心がけましょう。

同じことを何度も繰り返したら... 「これからどこに行くの?」「わたしのご飯まだ?」	感情的になり、怒りだしたら... 「早くから病院よ!」「いま、支度してきますよ!」
行動の遅れやできなくなったら... 「洗濯はどうしたいの?」「外出の準備ができていい...」	先の見通しや段取りが難しくなるので、次の行動を一言で伝えるようにする。 「洗濯かごに入れてね!」「かばんに財布を入れてね!」
時間・場所・人が分からず不安 「一体、今は何時だろう...」「ここはどこだろう...」「あの人は誰だろう...」	「時間」「場所」「人」の3つの情報を繰り返し声掛けが安心につながる。 「12時だからお昼ごはんですね!」「集合所は賑やかですね!」「隣の山田さんが来たよ!」

出来事は忘れても感情は元気

新しい出来事を感じることは苦手なのですが、その時に味わった感情は覚えていきます。「あたたかい」「心地よい」「人とながっている」感情が残るように接することが大切です。

監修：大阪公立大学



～「転倒予防・介護予防のお部屋」・「認知症を知るお部屋」の監修について～

①教員紹介

大阪公立大学では、リハビリテーションの研究者による「転倒予防・介護予防のお部屋」「認知症を知るお部屋」の2部屋を監修。



教授 樋口 由美(ひぐち ゆみ)

大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科

専門分野:高齢期リハビリテーション学

コメント:今回リニューアルした UR のモデルルームは、歳を重ねることで生じやすい健康不安、家庭内での転倒事故等を「お部屋」から解決するヒントを盛り込みました。見て、体感してください。

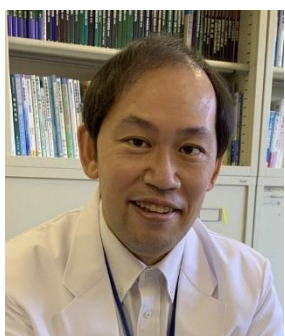


教授 横井 賀津志(よこい かつし)

大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科

専門分野:高齢者の認知機能低下予防, 作業科学, 転倒予防

コメント:認知症は脳の病気です。加齢に伴い、誰もが発症する可能性があります。「認知症を知るお部屋」は、認知症の方の心境を知り、発症した時に、自宅での工夫や地域での支えあいなど、安心して暮らすためのヒントを散りばめました。自身が発症した際に安心を備える地域を作ることが大切です。認知症予防のための暮らしの工夫についても参考にしてください。予防から認知症の方への対応まで、地域で実践する際の一助となればと思います。



助教 上田 哲也(うへだ てつや)

大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科

専門分野:高齢者の転倒予防、福祉住環境整備

コメント:加齢や病気による筋力の低下などにより、高齢者の約 20%は、1 年に 1 回以上は転倒するといわれています。特に、住宅内での転倒事故は増加傾向です。「転倒予防・介護予防のお部屋」では、“生き生きとした生活を長く”続けることができるよう、「ちょっとした工夫」や「新しい技術の活用」を提案しています。転倒予防グッズや健康寿命延伸のための運動も紹介しています。「転ばない」住まい方を、是非、ご自宅でもお試しください。

②「住マイルリハビリテーション」とは？

高齢者や障がい者へ向けての住環境の提案や、住宅でのリハビリテーションの助言・提案を行っていく、これらの概念を「住マイルリハビリテーション」として、新しく提案しています。

「住マイルリハビリテーション」の実践として、生き生きとした生活を長く続けるために、身の回りの環境を見直すことから始められるよう、ホームセンターなどでも購入でき、ちょっとした工夫で明日からでも転倒予防につながるグッズも紹介。

～「介護・医療のお部屋」の監修について～

①監修者の紹介



社会医療法人大道会 在宅事業部 統括管理者 安井 学(やすい まなぶ)

活動領域:在宅リハビリテーション、終末期リハビリテーション、要介護者の自立支援、

コメント:最近では介護度や障害が重度な方でもご自宅で生活ができるよう様々な機器が開発されています。しかし、地域の方々にはこれらの機器に触れることは疎か知る機会もなく、施設入所を余儀なくされてる事例が多いと感じています。このモデルルームではそんな現状を少しでも変えることができればと想い、監修させて頂きました。ぜひ、ご覧ください。

②「健康ステーションまなぶ」のご紹介

「健康ステーションまなぶ」は、「訪問看護・リハビリ」、「ケアプラン」、「福祉用具・住宅改修」と3つの介護保険事業所をオールインワンで提供する複合型の介護事業所です。「すみなれた家」での療養生活や看取りを支えるため訪問でお手伝いをする事にこだわっています。0歳児から高齢者まで、特に介護度や障害が重度な方の「我が家で暮したい」を支えます。